アジア国際社会福祉研究所 kara

No.22　2019.3.19　　編集・発行責任者　秋元　樹

スリランカで議論を深めて

～仏教ソーシャルワーク　ワークショップを開催～

アジアの仏教国を主な対象とした仏教ソーシャルワークの研究プロジェクトでは、これまでの取り組みの成果を踏まえて議論をさらに展開させていくことを目的に、2 月 11 日～15 日の日程でスリランカのキャンディにて仏教ソーシャルワーク　ワークショップを行った。

第 2 回国際学術フォーラム（2017 年 3 月に千葉市で開催）で結成された仏教ソーシャルワーク研究ネットワークのメンバーは、スリランカ内陸の町、キャンディに集まり、仏教ソーシャルワークの教育カリキュラムと今後の研究課題について意見を交わした。

初日は、地元スリランカの仏教ソーシャルワークのこれまでの歩みや仏典の根拠の他、高齢者福祉や子供福祉といった切り口から寺院や仏僧による実践を取り上げた講演や報告がなされた。2 日目は、スリランカ、ベトナム、モンゴル、ブータン、タイ、そして日本からの報告を踏まえて、グループディスカッションを通して仏教ソーシャルワークの教育カリキュラムについて検討し、各国の現状やニーズにあわせた提案をまとめた。3 日目は、アヌラーダプラ仏教遺跡のフィールドトリップとあわせてスリランカ Bhiksu 大学

を訪問し、仏僧を対象とした教育課程における仏教ソーシャルワークの今後の可能性と展開について意見交換を行った。

仏教ソーシャルワークの作業定義が採択されたハノイ会議（2017 年 12 月に開催）に続いて、アジア各国と手を結んで仏教ソーシャルワークの探求がさらに前へ進んだ。

研究シリーズの日本語版に新たな一冊

～ラオスにおける仏教ソーシャルワークを紹介～

『ラオスにおける仏教ソーシャルワーク実践の概説』と題して、研究シリーズ 3 号は出版された。昨年に発行された英文に続いて、今度は日本語版をまとめることができた。ラオス研究を担当した渋谷哲教授（当研究所のプログラム研究員）が編者を務め、ラオスの研究カウンターパートによる英文報告をベースに和文としてまとめた。その中で、渋谷教授の率いる淑徳大学の研究グループ（西尾孝志教授、藤森雄介教授、郷堀ヨゼフ准教授）による現地調査を踏まえて、渋谷教授が本の第 2 部として執筆した。現地の目線と同時に、日本からの目線の両方を合わせた貴重な一冊。アジアの仏教ソーシャルワークの「今」を知るために、また一歩前へ進むことができた。

※ベトナム報告の日本語版は今月中に出版される予定である。

◆アジア国際社会福祉研究所のニュースがSナビにて月1回程度配布されております。